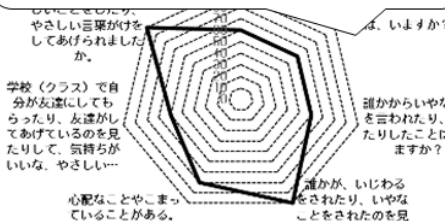


サポートカード

1 学校生活アンケートの結果

①きれいな七角形はどバランスの良い状態です。へこんでいる部分は課題をもっていると捉えます。



②このクラスは「認め合い活動」や「自己存在感をそだてる手立て」を必要としているようです。

2 C&Sの結果

自己肯定感

結果のまとめ

③このクラスは、点の散らばりから子供たちがそれぞれの方向を向いています。「子供たちと共にルール作りをする」などの活動が必要とされているようです。



④右上に点が集団状に集まれば集まるほど児童が満足した集団といえます。左下隅に集まれば集まるほど学級の雰囲気は満足したものではないと考えます。

3 気になる児童生徒について (2…ときどき 3…よくある あまり楽しくない)

⑤ここには、学校生活アンケートで気になる回答をした児童名と気になる項目が塗りつぶしで表示されます。赤は緊急度高く、黄色は警告です。

児童名	学校生活アンケート					サポートに向けて		
	かが、じわるされた、いやことをしたの、見たことがあります	心配なことやこまっていることがある。	担任所見	所見内容	★生徒指導部会でのサポート案及び	●教育相談部会でのサポート案		
1 A	3	1	1	1	・最近無気力 ・課題忘れが最近目立つ ・最近、身だしなみに乱れ	☆○	★聞き取りを行って欲しい。 ★生活習慣の乱れが有用感が低くなっているのかハッキリさせる必要あり。 ●生活習慣の乱れの可能性を心配。 ●家庭での様子、学校での様子を整理して記録しておいてほしい	
2								
4 C		2			・指導済み。 ・継続指導をおこなう	不要	●了解。経過観察を。	
5 E	1	3	1	1	・現在対応中 ・元気がなく暗い顔をしている ・本人は心配ないという	☆	★注意深く観察を。 ★いじめの心配がある。 ●注意深い観察を。 ●経過観察を。 ●おいてほしい	

⑥表示されない児童でも気になる児童がいた場合は、担任が追加記載し、サポートを求めましょう。

⑦各児童の担任所見を原本を見ながら記入しましょう「所見内容」から、部会での協議を選択してください。生徒指導は☆、教育相談は○、両方は☆○、サポートを必要としない場合は「不要」を選択し、「指導済」などをセルのリストから選択して記入してください。

⑧記入内容をもとに各部会からサポート案が示されます。生徒指導部会からは「★」以下に、教育相談部会からは「●」以下に示されます。サポート案をもとに児童支援をしてください。

4 自己有用感を育てる取組にサポートをどのように活用してみましたか？

- (A) 聞き取りを行うと夜更かし(ゲーム)が原因のようである。家庭との連携をとり指導をしていきたい。
- (B) 学業内のポジション、人間関係、引き継ぎ事項の確認などを始めた。引き続き教育相談部会でのサポートをもらいたい。
- (E) サポートの通り記録をしている。最近、家庭内が忙しく、本人も大変であると話す。寄り添いながら励まし支援していきたい。

⑨各部会からのサポート案をもとに行った支援内容と結果を記録してください。

サポートカードからの対処例



グラフ1で「学校は楽しいですか?」「友達がいいますか」の項目の値がへこんでいたり、3で児童が表示されたたりした場合
 →児童一人一人が「自分らしさ」「良さ」を見つけられる活動をしてみてはどうでしょうか? (例)朝の会や帰りの会の30秒スピーチ(お題例:夢中になっていること、自分ののんびりタイムは何をする? など)ほか
 →該当児童へ聞き取りを。寄り添う気持ちを大切に。

グラフ1で「かからいやなことやことをいわれたりされたりしたことはありません」「誰か意地悪をされたりいたたりいやなことをされているのを見たことがない」「心配なことや不安なことがない」の項目の値がへこんでいたり、3で児童が表示されたりした場合
 →遊びを通してのルールを学ばせてみてはどうでしょうか? (例)「仲間に入れて」と言われたら断らない」「失敗したらドンマイという」など
 →該当児童へ聞き取りを。寄り添う気持ちを大切に。

グラフ1で「自分が友達にしてもらったり、友達がしてあげているのを見たりして、気持ちがいいな、やさしい など思ったこと」や「自分が友達にやさしいことをしたり、やさしい言葉がけをしてあげられましたか。」の項目がへこんでいた場合
 →『仲間の良さを見つけろ』『仲間の頑張りを喜べる』『喜びを表出できる』集団作りの取組をしてみませんか? (例)帰りの学活でプチレクで「共通点さがし」、「キラリは君だ!」など「ありがとう・できました」の木活動 など

2のグラフ「O&S」の分布図について。
 ①右端に縦長に分布→「管理型」 ②全体に点が散在→「散漫型」
 ③対角線状に右上がり分布→「潜在型」
 →学級の雰囲気や満足した状態はありません。自己肯定感をもたせる活動、自己有用感を持たせる活動や遊びを通してのルールを学ばせてみてはどうでしょうか? (例)係当番の自主性を活性化させる一人一役活動、エンカウターなど。

★グラフや表に変化があった時には、一人で抱え込まずに、まずは、学年主任や生徒指導担当、管理職に相談しましょう。みんなで対応を考える「組織的な取組」で子供たちに柔軟な笑顔を映かせましょう!

サポートカード活用マニュアル & ケース対処例



1. はじめに

本「サポートカード」は、子供たちの思いが反映された「学校生活アンケート」の結果とO&Sの結果を基に、教職員が児童理解をする際の指導すべきポイントを中心とし、組織的な生徒指導の実施をねらう資料として作成しました。サポートカードでは、学校生活アンケートで問われている観点を基に学級全体のバランスが分かるグラフとO&Sによる学級内の児童一人一人の位置状況を示すグラフを並列表示されます。客観的に学級の課題点を把握し、その上で、児童の問題点、さらには、学校生活アンケートで心配される回答をした児童を表記することで、情報の比較判断できるようになりました。

2. 見方・捉え方

- 「各グラフ」「気になる児童表示」は、それ単独で見ても判断するのではなく、それぞれを有機的に捉え、総合的に情報判断しましょう。
- ここでのグラフの結果や分布結果、気になる児童の表示のデータは、子供の生の情報あり、訴えでもありません。データを参考しながら子供たちに着目し、対話をし、開業的・問題解決的に活用してください。
- 何よりも大切なのは、事案に気付いたら管理職、学年主任、生徒指導主任へ「報告」「連絡」「相談」をし、早期発見・対処できるようにしましょう。一人で抱え込まず、組織的に解決をしていくことが一番大切です。